

健康登山58:周辺の山29 (鈴鹿 油日岳)

コース	柘植駅 2.5km/39	自然歩道合流点 1.0km/16	奥余野登山口 0.6km/17	林道 終点 0.9km/52	油日岳 0.8km/25	三国岳 1.0/32	ゾロ峠 1.1km/28	奥 余野登山口 1.0km/14	自然歩道合流点 2.5km/38	柘植駅
水平距離	11.4km		断面図		1000 800 600 400 200 0					
水平換算距離	13.0km		縦軸：高度m		0 2 4 6 8 10					
累計高低差	登り639m、下り639m		横軸：距離km							
標準歩行時間	4:20									
実績歩行時間	4:36									



山行報告

山行日 2010・9・2(木) 天候 晴時々曇り 参加者 5名

京都駅8:07 柘植駅9:44 合流点10:20 奥余野登山口10:35 林道終点11:01~11:30
 油日岳12:13~12:52 忍者岳13:16 三国岳13:31 倉部山13:56 ゾロ峠14:17
 ~14:38 登山口15:08 合流点15:20 柘植15:50 京都駅17:27

記録

柘植駅を起点として三重県側から油日岳に登り、三国岳からゾロ峠に下り、時間に余裕があれば小平山と旗山にも立ち寄り柘植駅に戻る計画で臨んだ。

駅から奥余野登山口まで3.5kmの東海自然歩道は林を切り開いた林道で日差しが遮られて歩きやすかった。奥余野登山口でゾロ峠へ向う自然歩道と別れて林道終点まで歩いた。

林道終点には三馬谷小家と書かれたあずまやがあり、左俣は油日岳、右俣は三国岳という道標がある。左俣の三馬谷溪谷に入るとすぐに雲竜の滝や水竜の滝などの小滝がある。滝を越えたあたりで体調不良を訴えた1名をあずまやまで送り登山を続けた。

標高500m位から急登になり県境尾根に乗ると間もなく標高697mの油日岳についた。昼食後、記念写真を撮り、那須ヶ原山へ向う稜線を歩いた。アップダウンの多いヤセ尾根を慎重に歩き、加茂岳と呼ばれるあたりからは那須ヶ原山が大きく見えた。忍者岳と三国岳の間はフィックスロープが張られたキレットで鞍部には不鳥越峠の標識がある。しかしこれは間違いで望油峠が正しい。本当の不鳥越峠は三国岳南面の鞍部である。何れにしても林道終点から右俣を詰めると三国岳に突き上げていて、その左右の鞍部の名称だが名前の通りかなり険しい。

三国岳付近で先に下山した人からゾロ峠で私たちの下山を待っているという電話があった。不鳥越峠を越え、なだらかで展望のよい倉部山を過ぎると間もなくゾロ峠に着き合流した。14時を過ぎていたので旗山には登らずに東海自然歩道を通して柘植駅へ向った。

奥余野登山口から柘植駅までは往路と同じ道を引き返し、15:50に柘植駅に着き、予定通り

16:15発の列車で京都へ向った。

Sさんはそこに棲んでいる生き物を大事にするために可能な限り蜘蛛の巣を避けて歩く。その度に背を屈めねばならず結構疲れる。しかし自然に対する一つの考え方を学ばせてもらった。

周辺の山（鈴鹿 油日岳）



奥余野登山口
正面は忍者岳
10:32

林道終点
10:57



油日岳山頂
12:48

那須ヶ原山
13:05



キレットの下り
13:22

三国岳
13:31



不鳥越峠へ下る
13:41

ゾロ峠
14:37



柘植駅の踏切
15:48

余野公園から
油日山系
7月1日撮影



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：鈴鹿 油日岳）

参考資料 ホームページ他より

◎ 奥余野森林公園：（三重県企業の森）

三重県、伊賀市、企業の三者が締結して実施活動されている。

経費は企業が負担し社員等が参加し、市域住民との交流を図り、間伐、植栽、林内歩道造りを行っている。

伊賀市の複数の企業がそれぞれ 3~10 年を目標に平成 18 年から着手されている。

◎ 三馬溪：倉部川の支流。油日岳と加茂岳、忍者岳に囲まれた三馬谷の滝群を総称して三馬溪と呼ばれている。滝の水量は多くなく規模も大きくないが、溪流瀑などの数が多くある。その中で名前が付けられた滝を下流から紹介。

昇竜の滝：約 5 m

小竜の滝：約 5 m

雲竜の滝：約 10 m

天竜の滝：約 15 m

◎ 油日岳：標高 693m。山の西麓、甲賀町油日にある油日神社の神体山。

昔この山頂に油日大明神が降臨し、その時大光明を発したので、「油日」の名が起ったという。

山頂に油日神社の境外奥宮・岳神社があり岳大明神(油日荒魂神)を祀る祠がある。

◎ 油日神社：主祭神は油日大神。

配祀は東殿に罔象女神、西相殿に猿田彦神を祀る。

延喜式神名帳に記載。甲賀地域随一の名社。油日岳の北西山麓に鎮座。

油日神は、天地創造の母胎である「アブラ」に宿るヒ(日、火、霊)の大御魂であるといい、万象根源の神、諸願成就の神、油の祖神として崇敬されている。また**勝將軍**として武士(特に甲賀)の崇敬を受け、社名から油の火の神としても全国の油業者の信仰を集めている。

創祀年代不詳、用明天皇(聖徳太子の父)又は天武天皇の時代の創建と伝える。また、聖徳太子が社壇を建立し油日大明神を祀ったと伝承されている。

平安時代の歴史書「日本三代実録」に元慶元年(877)油日神社の神階の記述あり。

本殿に明応 2 年(1493)の棟札(重文)がある。

油日神は記紀に見えず、油日の地名も全国に見当たらず、この地のみ信仰された神とされている。

*甲賀市甲南上馬杉に、同名の油日神社がある。祭神は「天忍日命」^{あめのおしひのみこと}。天忍日命は、天孫降臨のさい、天久米命と共に、武装して「ニニギノミコト」の先導をした大伴氏の始祖。甲賀油日にある油日神社とは別系統の神社です。

*配祀の罔象女神(みつはのめのかみ)を祀る。日本書紀に記載の神。古事記では弥都波能売神^{みづはのめのかみ}。水波能売神とも表記される。代表的な水の神。神産みのとき、火之迦具土神^{ひのかぐつちのかみ}を産んで火傷をしたとき、苦しんでいたイザナミ神がした尿からワクムスビ神とともに生まれたとされる神。中国の文献で「罔象」は竜や小児の姿をした「水の精」であるという。

【油日神社秋祭り】

〈岳ごもり〉: 9月11日夜、油日岳山頂に産籠し徹夜で神火を焚きあげる古事が行われる。翌日、山の神の「荒魂」を山麓の里宮に迎える。

〈大宮ごもり〉: 13日夕刻から、里宮にて信者が参集して回廊に幔幕を張り、蚊帳を吊って、その中に参籠し、社前には万灯の灯明をあげ徹夜で、油の祖神に祈禱を捧げる伝統行事がある。(荒魂とは、神霊の活動の盛んな状態、又は作用)

- ◎ 油日岳縦走の山 (ゾロ峠南方の小平山(鳥山)/旗山方面は峠を境に、分割周回もある)
- *加茂岳: 720m 頂上は三重側にある。
 - *忍者岳: 728m 以前は東油日岳とも呼ばれていた。コース最高峰。少し外れに山頂。
 - *望油峠: 670m
 - *三国岳: 715m 加太三国岳。近江、伊賀、伊勢の三国の境にあり、山名の由来となる。
 - *鳥不越峠: 640m とりこえず峠。
 - *倉部山: 685m 展望が少し開けた尾根筋にある。
 - *ゾロ峠: 559m ぞろぞろ峠。東海自然歩道。余野公園から不動滝を経て鈴鹿峠に至る。壬申の乱のとき大海人皇子が伊勢から美濃への通路。源義経も通った。
 - *北打出山: 694m 伐採された笹原の山。
 - *小平山^{こべらやま}: 717m 鳥山ともよばれている。展望なし。古平山分岐から往復となる。
 - *旗山: 649.5m 唯一三角点がある。送電線鉄塔下で眺望あり。
 - *熊鷹社: 旗山の登山口になっている。伏見稻荷大社の新池、熊鷹大神を勧請?